

01

川西市地域分権推進事業 ニュースレター

第1回地域夢・未来カフェ in 明峰

地域分権制度の検討の一環として、地域課題の解決に向けた具体的な活動案を考えながら、地域分権制度についての意見をいただくため「第1回地域夢・未来カフェ in 明峰」が開催されました。

日時：2012年11月27日（火）19:00～21:00

場所：明峰公民館

参加人数：市民26名+市WGメンバー3名

当日のスケジュール

- 19:00 開会、あいさつ（総合政策部長）
- 19:05 昨年度懇談会概要について
- 19:20 フォーラム及びテーブルワークの概要について
- 19:30 イントロ（川西クイズ）
- 19:50 テーブルワーク①『地域の課題について』
- 20:10 テーブルワーク②『実現に向けた取組について』
- 21:00 閉会

あいさつ・昨年度懇談会概要について

総合政策部の本荘部長から、地域分権制度の構築に向けての説明がありました。地域分権が推進される社会的背景や必要性、制度の概要とともに、今年度策定される第5次川西市総合計画における地域別構想の位置づけについても触れられました。

また、これから3回にわたり開催される地域夢・未来カフェの目的や昨年度実施された地域別懇談会との関係などについても説明がありました。



地域分権制度とは

市の持続的な発展を図っていくためには、行政の力だけでは限界があります。そこで、これまで行政が主導して担ってきた地域の課題に対し、地域住民自らがその解決にあたるために、一定の権限や財源を地域へ移譲する制度です。



フォーラム及びテーブルワークの概要について

キックオフイベントとして9月15日に開催された「かわにし夢・未来フォーラム」の報告がありました。地縁型組織とNPOやボランティアなどのテーマ型組織の連携の必要性、面識社会の回復の重要性、市職員の果たすべき役割などについての意見交換が行われたとの説明がありました。

次に、カフェでのテーブルワークの方法についての説明がありました。まず、昨年度実施された懇談会の結果をふりかえり、「地域の課題」や「地域のありたい姿を実現するための取組」の内容を共有しました。その上で、2種類の色のシールを使って投票しながら、特に重要な課題や取組をみんなで議論し、検討していくという流れの説明がありました。テーブルワークに入る直前には、イントロダクションとして、日本全体や川西市の状況についてのクイズが出題されました。



テーブルワーク

後半は、4つのグループに分かれてテーブルワークを行い、さまざまな意見を出した後に、特に重要な課題と取組を投票し合いました。地域のつながりや交流については、課題と取組両方で重要度が高く、暮らしの利便性や移動の安全性の向上は課題で、安全を守り命の大切さを知るための取組でそれぞれ高くなっています。



◆地域の課題について（重要だと思う課題を1人3点選ぶ）

地域の課題	点数	地域の課題	点数
●生活マナーの改善	6	●犯罪や災害に対する安全・安心	10
●子どもたちを健全に育成するための環境づくり	6	●コミュニティ活動の活性化	26
●高齢者の見守りや暮らしを支援するための環境づくり	9	●その他	6
●暮らしの利便性や移動の安全性の向上	15		

●追加された主な意見

・公園でネコに食べ物を与えている ・地域の少年スポーツクラブの育成策 ・地域から明峰高校へ進学が20名のみ ・子どもが集まれる場所の不足
 ・子育てサークルはあるが入れ替わりが多い ・公園が少ない ・高齢者が集える場所 ・民生委員がオーバーワーク ・坂道が多い ・地域の担い手不足
 ・運動会に人が来ない ・イベントには参加するが、日常的な活動への参加は少ない ・私道が暗い、危険 ・交番との連携がとりにくい
 ・防犯協会が分かれている ・交番の設置 ・高齢者の移動の問題 ・若い方の意見を吸いあげる場所（夏祭り等）
 ・ボランティアの担い手（勤めに出ている人が多い） ・共働きの人が多い ・年代によって感じ方がちがう ・団塊世代の地域活動への参加促進 など

◆地域のありたい姿を実現するための取組について（重要だと思う取組を1人5点選ぶ） ※0点の項目は削除

実現に向けた取組	点数	実現に向けた取組	点数
●自然環境に恵まれみどりや小鳥が多いために <2>			
街路樹を楽しむため、あまりばっさり切りすぎない	2		
●交通手段が充実し気軽に外出できるために <15>			
バスの路線に関して、行政と関係者での改善委員会を設け、検討を行う	8	問題のある道路(狭い歩道など)の整備	4
阪急バスに一方通行ではなく両方向に運行してもらう	3		
●身近なエリアで生活できるために <11>			
行政と医師会の協調により医療環境の充実を図る	11		
●安全を守り、命の大切さを知るために <22>			
警察と連携した自主パトロールの実施	1	災害時の通報(警報)連絡網(連絡手段)を作る	1
地区を細かく分けてパトロールする(リタイヤ層に参加してもらう)	2	防犯カメラを設置する	8
自主防災マップを作成する	2	警察の区域を再検討してもらう(防犯、交番等の対策区域)	7
OBおよび女性消防団を作る(自主防災会の活用)	1		
●皆が笑顔であいさつを交わし、ふるさとと呼べるために <26>			
気軽に誰とでも挨拶する	1	向う三軒両隣をもっと広げる	9
住民が参加しやすいイベントを開催する	3	盛大なスポーツ大会を考える	1
高齢者の人材バンク(魅力ある文化活動メニューを増やす、簡単な電球替えをしてもらう、植木の剪定をってもらう等)	2	自治会への若者の参加を増やす方法を考える	2
公園に寄りやすくする(藤棚等)	2	資源の有効活用をする←意見を聞いてメニューを作る(貸し農園等)	2
市有地を活用した活動拠点を確保する	2	皆が自治会員となるような条例を作る	2
●地域の子どもを地域で育むために <13>			
子育て交流広場をもっと作る	3	多世代が生活できるようにする	4
公園を整備する(整備:行政,管理:地域)	2	若い世代の人用の交流の場や設備を設ける	2
児童館が欲しい	2		
●高齢者や障がい者が健康で安心して暮らせるために <20>			
自家用車ボランティアの普及	1	生活支援ボランティアを増やす	4
高齢者のゴミ出しを地域で支える	3	高齢者の集いの機会をもっと増やす	1
イベントに参加しない高齢者への声かけ方法を考える	3	認知症、徘徊者のネットワーク、連絡網の整備	5
高齢者が喜ぶ施策(バス料金無料券発行)	3		

●追加された主な意見

・自治会加入、退会防止策をつくる(3) ・公園の目的に沿った分類(3) ・病院をつくるのではなく医者に戻ってもらう(2) ・日常的なケアは地域で
 ・高齢者の独り暮らしの見守り(1) ・地域密着型介護施設の充実(1) ・老夫婦2人が多く、いずれは独りに ・元気な高齢者と子どもが接する機会
 ・情報が常に共有できる仕組み ・行政の視点と地域の視点が違う ・自治会に加入するメリットを明確にする ・認知症の徘徊 など

◆取組ごとのグループ分け

A	地域活動に若い世代の参加を促進する	B	高齢者などの移動手段の確保
C	リタイヤ世代のきっかけづくり・人材育成	D	公園、緑化、拠点づくり